



教育
CURRICULUM
課程

カタカナ班になります。席，少し変えています。

#13 #14 中学校の学校づくりと実践からみる カリキュラム・マネジメント

南浦 涼介

- 中等教育における学校づくり，実践づくりから「横断的総合的なカリキュラム・マネジメント」の視点を得る

①福岡県飯塚市教育委員会の柴田先生から
福岡教育大学附属小倉中学校での実践を聞く（30分）

②実践から考える（30分）

- ・ 附属校と公立校の違い→公立校でも可能なのか？
- ・ 中学校と小学校の違い→小学校だとどうなるか？

③再適用させる（40分）

- ・ タイプA～タイプDの小学校をふまえて，どのような「横断的実践」が可能かを考える

3コマ

4コマ

②試験に向けて，まとめる（残った時間）

「附属だからできるんでしょ」という言葉を乗り越えられるか？

附属中学校の実践の話でしたが、公立学校の場合は

こうしたことが可能なのでしょうか

可能であれば、それはどのようにしてできるのでしょうか

- 附属校だけでなく、公立校同士、附属校同士でも異なる文化がある
- 公立校だからこそ地域の密着具合は強い（逆に附属校のほうが地域の密着性は弱いこともある）
- 学校ごとで目標を作るだけでは難しいので、「市としての教育目標」をつくる→それをうけて学校ごとの目標を作るので、「市の目標」を意識する
- 学校に裁量権を与えるしくみは大切
- まずは横断的なとりくみを「単元・プロジェクト」でつくってみる（「全体」「年間」が難しいときは）
- 地域への啓発
- 「カリキュラムの出口戦略」の重要性。共通テストも全て「考える」「ガチ」問題が出るので、「入試も変わっている」という言い方は説得力がある。ただし保護者のマインドを変えるには時間もかかる

「中学校と小学校は違うんじゃない？」をどう考えるか？

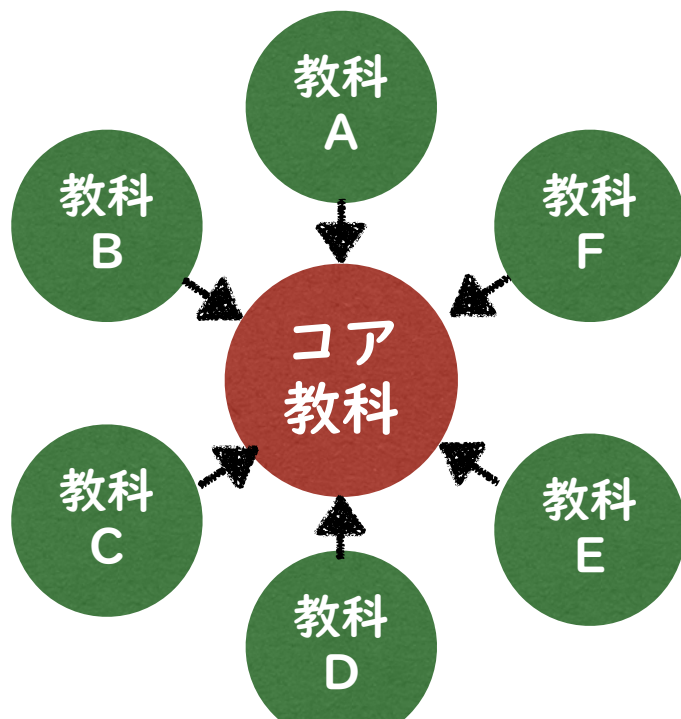
小学校だったらどういう発想で、全体で

「真真正な学び」「総合的な学び」「探究的学び」ができるのか？

これまでの授業から「何と何をつなげられるか」を考えてみよう
小学校の場合「分断されているもの→つなぐと面白いもの」とは？

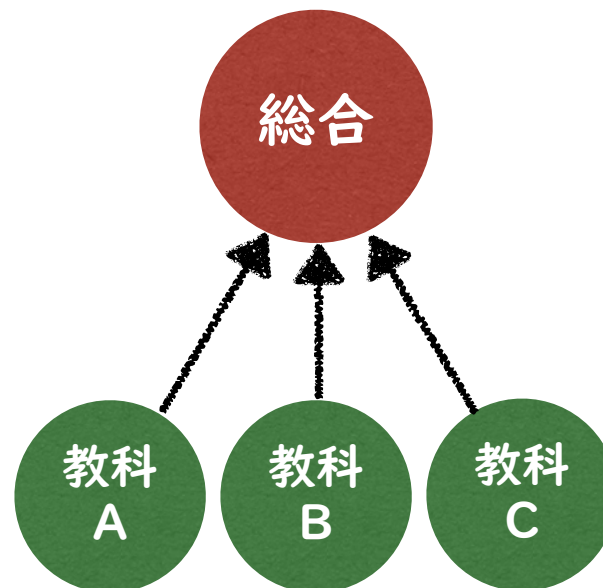
さまざまな「教科と教科のつなぎ方」

ア



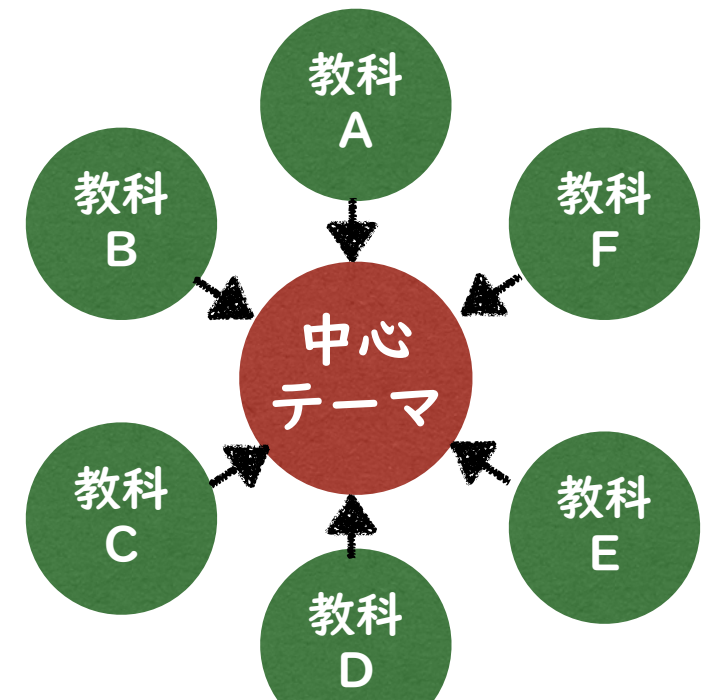
コアカリキュラム型
1940-50年代の経験主義教育で盛ん

イ



習得活用型
学力低下論を受けて2000年代に多い

ウ



テーマ関連型
2010年代後半から
全体で深い学びをつくるために

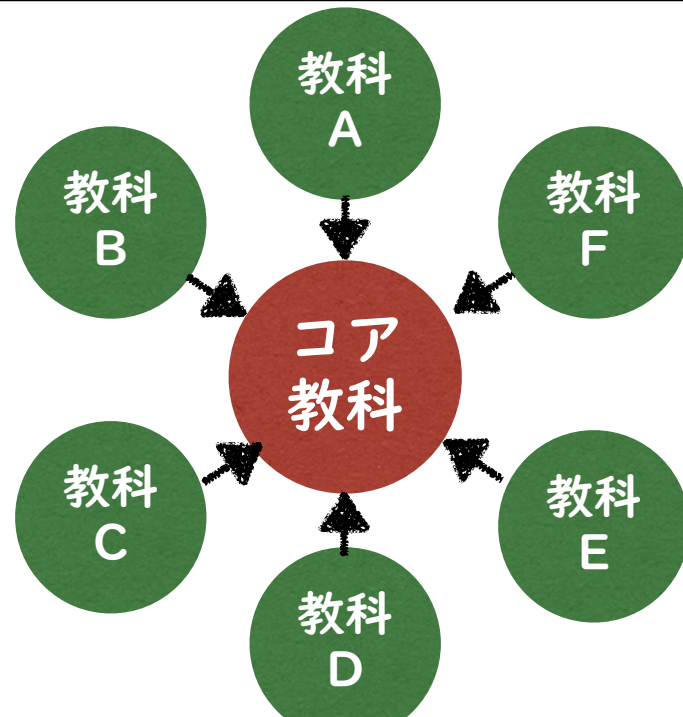
「中学校と小学校は違うんじゃない？」をどう考えるか？

小学校だったらどういう発想で、全体で
「真真正な学び」「総合的な学び」「探究的学び」ができるのか？

これまでの授業から「何と何をつなげられるか」を考えてみよう
小学校の場合「分断されているもの→つなぐと面白いもの」とは？

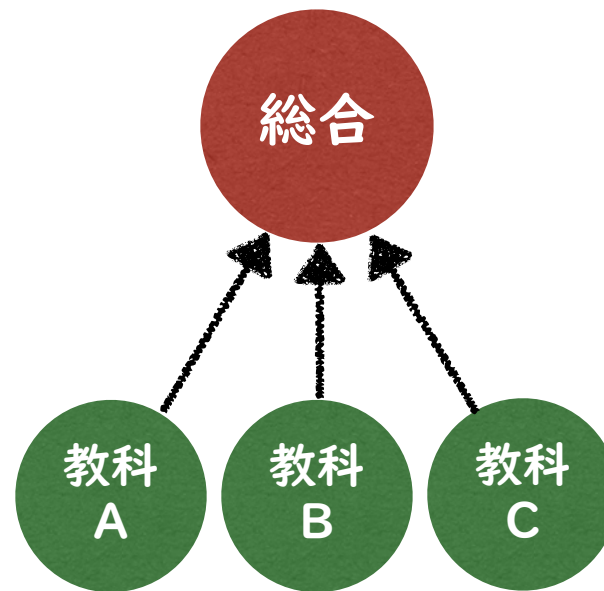
① 教科と教科を連携させる発想

ア



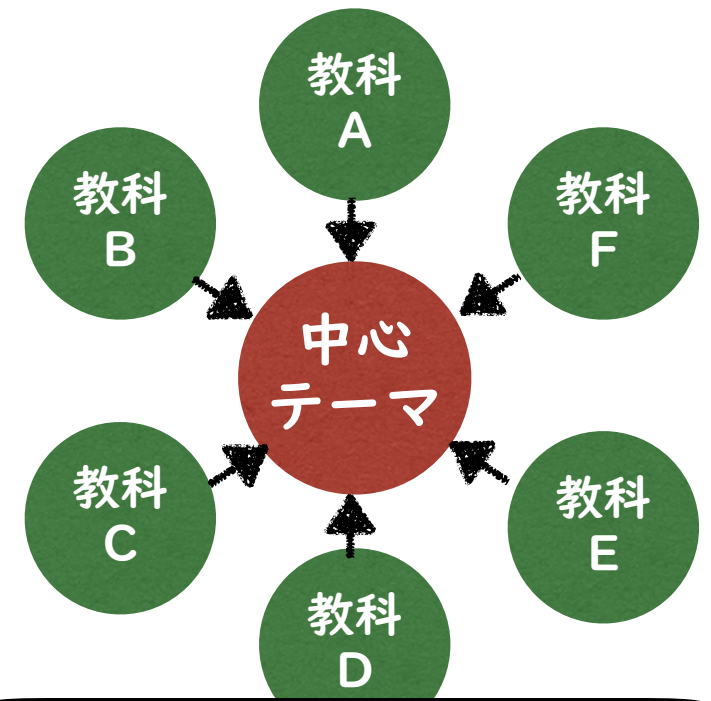
コアカリキュラム型
1940-50年代の経験主義教育で盛ん

イ



習得活用型
学力低下論を受けて2000年代に多い

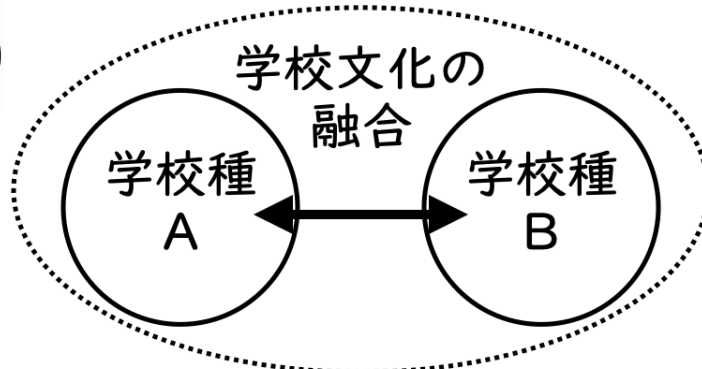
ウ



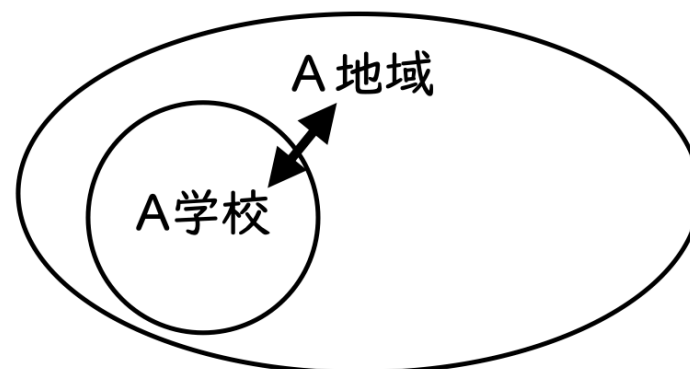
テーマ関連型
2010年代後半から
全体で深い学びをつくるために

② 組織と組織を連携させる発想 (第9-10回参照)

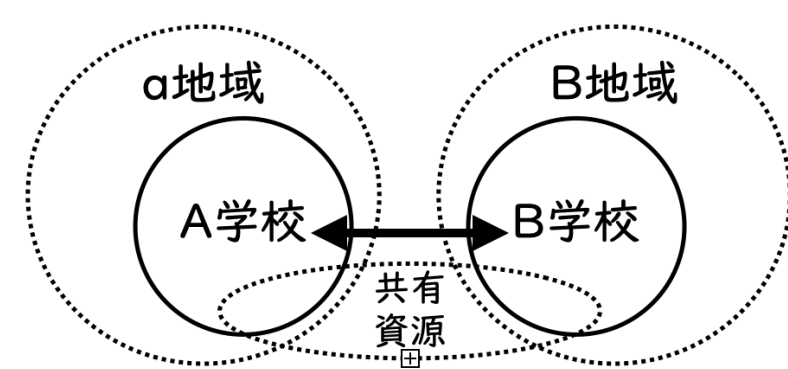
エ



オ



カ



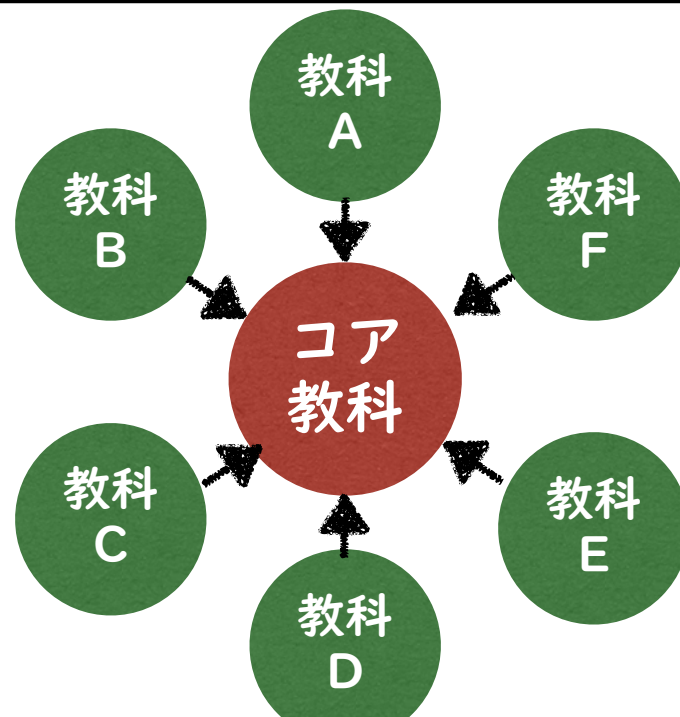
これまで使ってきた学校の枠組み

「タイプA」「タイプB」「タイプC」「タイプD」の学校を想定して
「真正な学び」や「総合的な学び」や「探究的学び」を考えてみよう

これまでの授業から「何と何をつなげられるか」を考えてみよう
小学校の場合「分断されているもの→つなぐと面白いもの」とは？

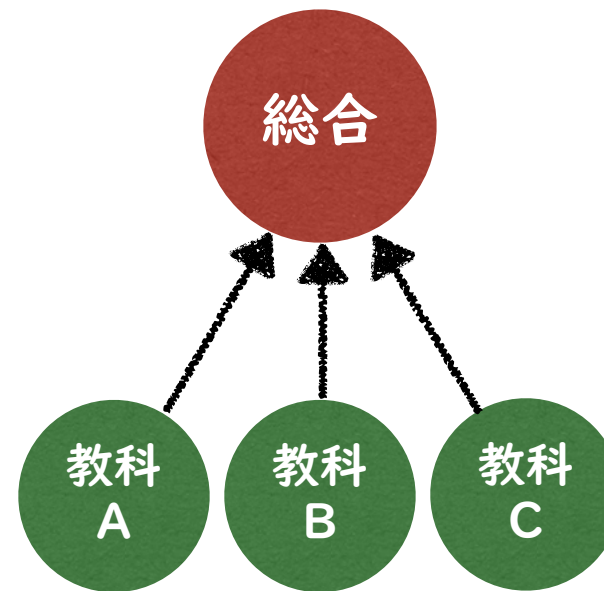
① 教科と教科を連携させる発想

ア



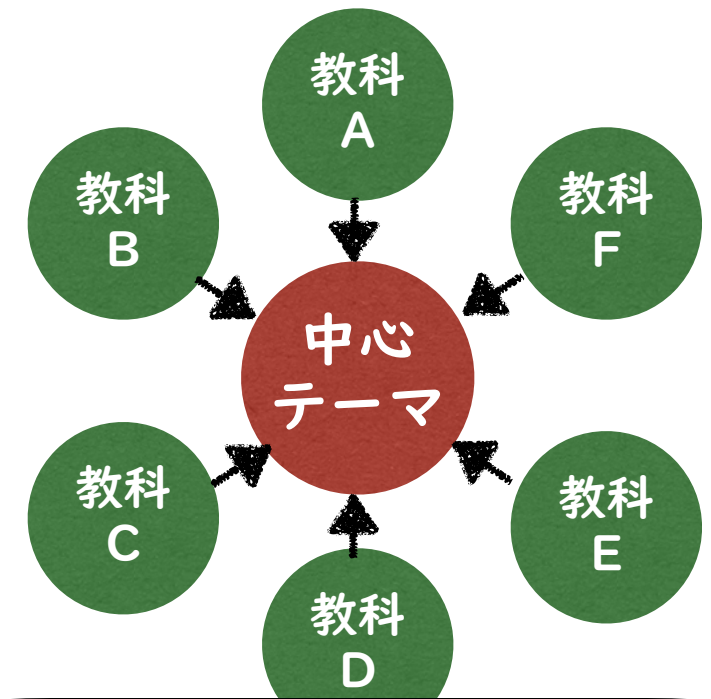
コアカリキュラム型
1940-50年代の経験主義教育で盛ん

イ



習得活用型
学力低下論を受けて2000年代に多い

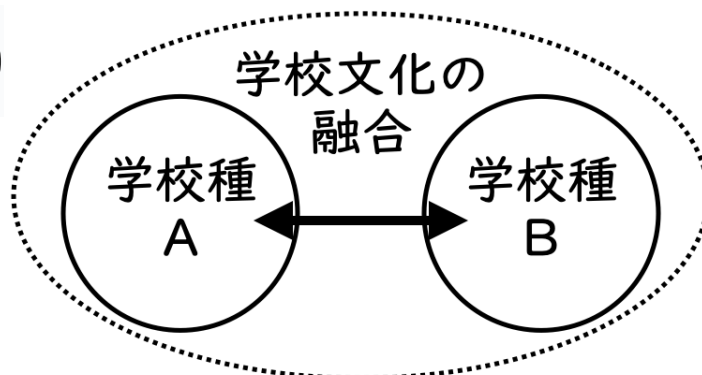
ウ



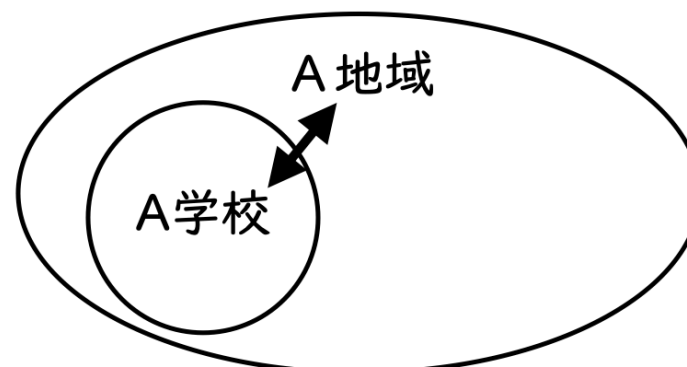
テーマ関連型
2010年代後半から
全体で深い学びをつくるために

② 組織と組織を連携させる発想（第9-10回参照）

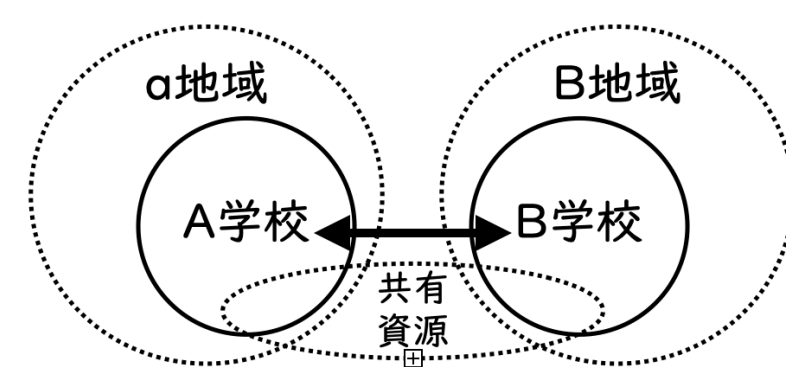
エ



オ



カ

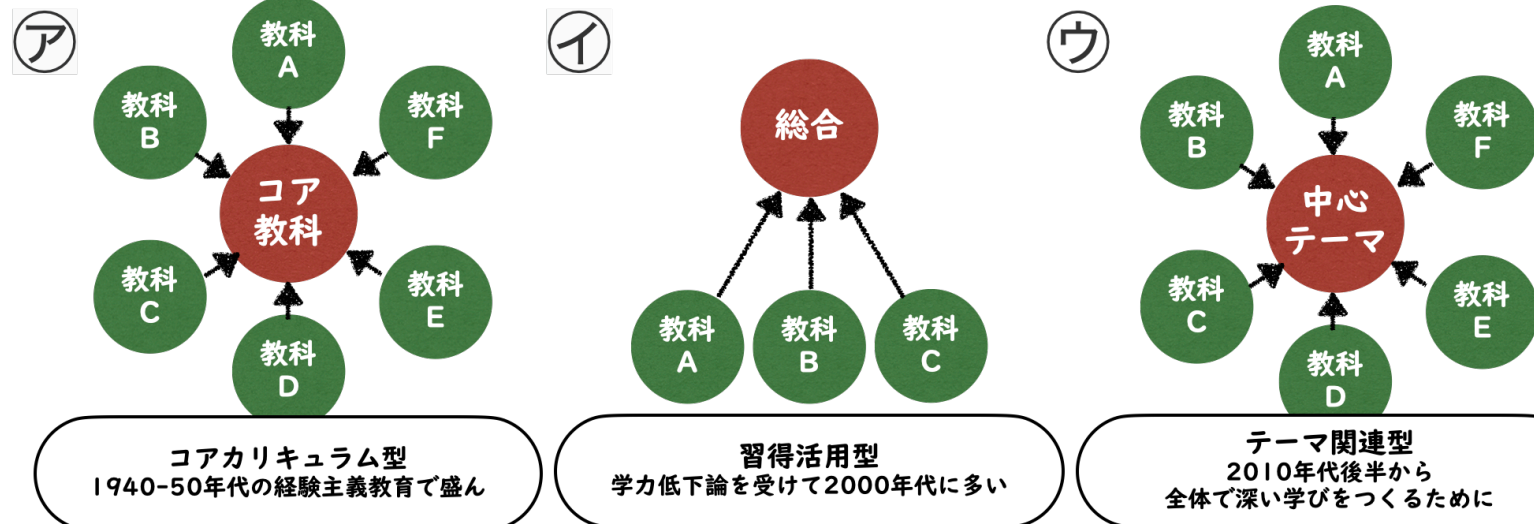


これまで使ってきた学校の枠組み

「タイプA」「タイプB」「タイプC」「タイプD」の学校を想定して
「真正な学び」や「総合的な学び」や「探究的学び」を考えてみよう

これまでの授業から「何と何をつなげられるか」を考えてみよう
小学校の場合「分断されているもの→つなぐと面白いもの」とは？

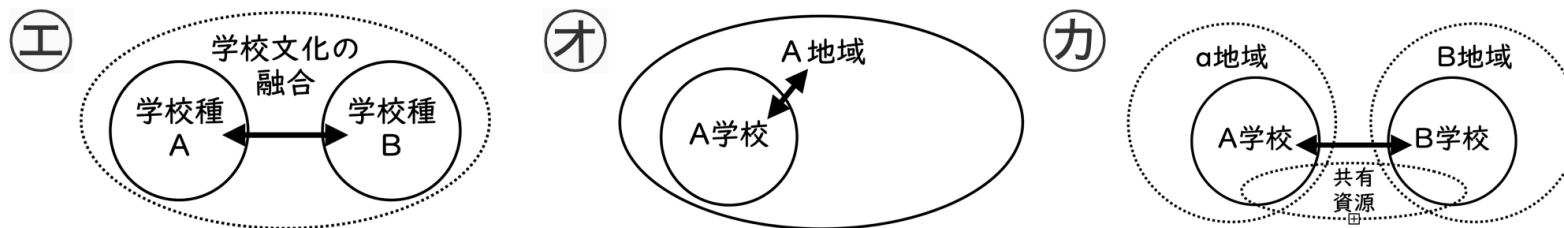
① 教科と教科を連携させる発想



①学校タイプA～タイプDを選ぶ
できれば…

母音a組 AorB 母音i組 BorC
母音u組 CorD 母音e組 DorA
母音o組 BorD

② 組織と組織を連携させる発想（第9-10回参照）



②「横断的総合的で」「真正で」「考える」単元を考えてみる

I) 中心テーマをもって総合として
II) 中心テーマを持って教科で
(今回は小倉中と同じ中心テーマで
考えてみる)

今日のおやくそく

- ・ 厳密に考えすぎない！（学年や内容など細かく出し過ぎると枠に縛られて出なくなりがち）
- ・ たくさんのアイデアをたくさん（5個考えて3つに絞る！）

③たくさん出す

- ・ 最初の10分1人で考え5つ考える
- ・ 合わせてベスト3つを決める

④Padletでアイデアを共有する

命題25 近年の「真正な学び」「社会に開かれた教育課程」を実現していくためには、単に「教科で学問する」（学問的に厳密な学び：リガー）だけではなく「教科で社会と関わる」（社会的に有用な学び：レリバンス）が重要となる。

命題26 「社会的に有用な学び」の実現のためには、教科の枠を超えた連携が重要となる。とりわけ教科枠の強い中等教育では、「教科横断」という視点で「掲げた中心テーマ」に向かっていく取り組みは重要である。
また、一度に「年間」を考えるのが難しい場合「単元」で考えるのも大切！

命題27 公立学校において「社会に開かれた教育課程」をカリキュラム・マネジメントの中で実現するときには「学校ごとのテーマ設定」だけでは難しい。そのため、都道府県・市町村の教育委員会によってつくられる「地域のテーマ」がキーになり、それを参考に学校がテーマを磨き、具体的実践にしていくことも重要。

命題28 小学校においても、教科の枠組みは案外強いため、「教科横断的な発想」は大切。学校の特性を生かしながらまた、それ以外にも「総合に生かしていく」「学校間連携や地域連携などの発想で実現する」ことも重要になる。